

OPLL 友の会 会誌

新年号



謹賀新年

本年もどうぞ宜しくお
願い申し上げます

平成二十年元旦

大阪後縦靱帯骨化症友の会
役員一同

もくじ

- ② 新年辞 会長 中岡 甫
- ③ 大阪友の会の皆さん お元気で
すか 会長 杉山 公長
- ④ 大阪後縦靱帯骨化症友の会のみ
なさま 大阪難病連
田口理事長
- ⑤ 後縦靱帯骨化症 — 過去、現
在、そして未来 大阪南
医療センター 米延策雄先
生
- ⑦ 催しのご案内
- ⑧ 全春柱連会報 杉山会長 巻頭
言より抜粋
- ⑩ 年賀状に思うこと
滝野悟陸氏
- ⑪ 投稿募集、パソコンブログ記事募
集、編集後記
- ⑫ 会費納入のお願い、国会議員署
名のお願い、募金の協力のお
願い

新年辞

大阪後縦靱帯骨化症

(OPLL)友の会

会長 中岡 甫(はじめ)

新年明けましておめでとーうございます。

大阪OPLL友の会会員、ご家族、賛助会員ならびに関係機関の皆様には、平素より当会の運営に対し多大なるご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、当会は昨年、岩崎佐八郎前会長が逝去された後、会の存続について検討した結果、前会長のご意思を引き継ぐ事が大切であると考え、私をはじめ数名が会の運営に参画し従前の通り友の会を存続することは先刻ご報告したとおりです。

その間、池田副会長、有井副会長はじめ数名の方のご協力を得て、名簿の整理、臨時会報の制作などを行って参りましたが、これまで岩崎前会長お一人でこなして来られたことは、かなりのご負担であったことを容易に推察できます。

現在、後縦靱帯骨化症以外に難病として指定されている疾患は併せて45種類で、それぞれに患者の会が結成されているようです。難病で苦しんでいるのは私達だけではありません。本来このような相談窓口は行政が携わることが理想ですが、日本では難病に関する行政当局の支援レベルは高いとはいえません。

特に大都市、大阪において私達の難病を統括して支援している難病連の事務局はNPOセンターの一室を賃貸入居し、大変狭いスペースの中で毎日山のように詰まれた書類の中で事務をされておられます。

私達が集い

を持つ事務局自体が無く、それぞれに会の代表の自宅などを臨時的

に活用しているのです。大阪市はバブル時代に作った遊休建物物件を相当数保有しており、有効活用されていないのが現状なのです。難病連会館建設、新薬認可、医療手帳など、行政に対しても訴えていかなければならないことがたくさんあります。

一人の力では声になりません。皆様一人でも多くの方がともに訴えるときに大きな力になります。患者本人は勿論、ご家族、ご友人を含めて意識を共有していただきたいと思えます。当会は後縦靱帯骨化症という難病指定の疾患を持つ患者あるいは家族を中心とした集いです。

整形外科をはじめ、この疾患に精通した専門医師を紹介することも大切な役割ですが、同じ悩みを共有しじっくりと悩みを聞いて差し上げることも重要な任務と考えています。私達の中で一人でも多くの方が悩みから解消できるよう、及ばずながらお手伝い差し上げる所存ですので、皆様にはお気軽にいつでもご連絡くださるようお願いいたします。

“今日一日 怒らず 恐れず 悲しまず”
私達は同志として、頑張りましょう！

3月23日開催の医療相談会には是非ご参加をお願いし、お目にかかれることを楽しみにしています。

末尾ながら、本年一年が皆様にとって平穏であり、安寧であることを祈念申し上げます。



大阪友の会の皆さん！お元気ですか

全国脊柱靱帯骨化症患者家族連絡協議会 会長 杉山 清美

大阪後縦靱帯骨化症友の会の皆さん、明けましておめでとうございます。お体の調子は如何でしょうか。お見舞い申し上げます。

昨年9月、岩崎佐八郎前会長さんが急逝され心よりお悔やみを申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。

このたび中岡会長さんをはじめとして新たな運営体制が確立され、早くも会報の発行など患者会活動のスタートを切られたことに衷心より敬意を表しております。

さて、全国脊柱靱帯骨化症患者家族連絡協議会（略称：全脊柱連^{ぜんせきちゅうれん}）は平成9年6月結成されましたが主な活動内容としましては、現在全国に組織されている骨化症の患者団体（17団体）の連絡調整・情報提供などの他、厚生労働省の「脊柱靱帯骨化症に関する調査研究班」と連携を強化し後縦靱帯骨化症の原因究明などの研究促進に協力、更には厚生労働省に対し私どもの病気に関する要望事項について話し合いを実施しています。又日本難病・疾病団体協議会（JPA）に加盟し地域の難病連や他の疾病団体と連帯を深めながら、難病や各種慢性疾患を中心にした医療や福祉制度の充実を目指した活動も行うなど多方面にわたっての活動を展開しております。

昨年は全脊柱連の結成10周年に当たる年でしたが、大阪後縦靱帯骨化症友の会の皆さんには結成当初から全脊柱連の中心的な立場でご協力ご指導をいただきました。当時の会長さんは東瀬戸信子さんでしたが、全脊柱連が結成された平成9年から15年まで副会長としてご尽力いただき、お体が不自由にも拘らず定期総会には必ず出席され活発にご発言されていたことを今も鮮明に記憶しています。今後とも全脊柱連発展のために皆様方のご尽力を賜わりたく宜しく願い申し上げます。

友の会活動の目標は、究極的には患者（会員）さんが病気を克服し如何にして快適な生活、幸せを求めていくかにあるといわれています。



後縦靱帯骨化症根絶の光はまだ見えていません。私どもは生涯この病気との同居を余儀なくされるのかも知れません。

しかし私どもには多くの仲間がいます。同じ病気で痛みや痺れに悩み苦しんでいる仲間がいます。貴方一人ではありません。どうぞ友の会を通じて会員さん同士の交流を深め少しでも多く心のやすらぎを求められますよう、そして貴友の会がますます発展されますよう衷心より祈念いたします。

大阪後縦靭帯骨化症友の会(大阪OPLL友の会)のみなさま

NPO法人大阪難病連 理事長 田口 信助

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

難病・慢性疾患患者、及びその家族にとって、予断を許さない、厳しい局面が続いています。昨年は、パーキンソン病、潰瘍性大腸炎等の炎症性腸疾患について、その対象患者数が5万人を超えることを理由に、この2疾患について、対象患者の範囲を削減する動きがありましたが、2疾患の患者当事者団体やJPA(日本難病・疾病団体協議会)、各地の地域難病連の反対運動によって、その動きを1年間は押し返したという貴重な取り組みとなりました。新年度に、この動きがどうなっていくか、更なる注視が必要になっています。

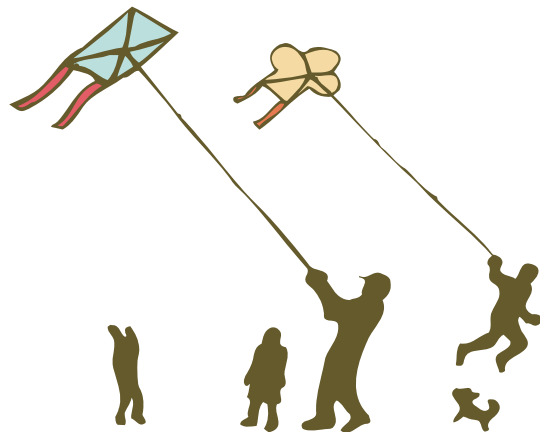
一方、真に障害者の自立を支援する法律となるのかどうか問われている障害者自立支援法の下で、見た目では障害が分かりにくい内部障害者に対して、また、現在そこには含まれていない難病患者対象の居宅生活支援事業においても、実際にどれだけサービスが提供されているのかどうか、その実態は心もとない限りです。

大阪においては、設立後、4年目となる大阪難病相談・支援センターについて、相談者のプライバシーも守れないという現在の劣悪な環境を、一刻も早く改善し、拡充していくことが、私たちの取り組みにより、重要な局面を迎えています。

難病・慢性疾患患者(児)が、病気をもちながらも輝いて生きていけるよう、個々の疾病団体のみなさまと手を携えて、今年も様々な活動に取り組んでいきたいと思いを。

貴会のご協力をよろしくお願いいたします。

ともに頑張りましょう。



後縦靱帯骨化症 — 過去、現在、そして未来へ

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター 副院長

整形外科部長 医学博士 米延 策雄 (よねのぶかずお)

「頌椎後縦靱帯骨化症(けいついこうじゅうじんたいこっかしょう)」は1838年にイギリスのキー(Key)医師が報告した論文に初めて記載されたとされています。日本では1960年に月本裕国医師がこの病気を持った患者さんの解剖をして、頌椎後縦靱帯骨化が脊髄を障害する病気であると報告をしています。この発見がその後の診療や研究の始まりとなっていますので、現在の意味での頌椎後縦靱帯骨化症は日本で発見され、診療や研究が進んだとって過言ではないと言えます。

その後、この病気を持つ患者さんがだんだん見つかるようになり、またその当時の技術の限界もあったと思いますが、手術が難しい病気であることも判ってきました。また、海外では1838年に報告があるものの、1960年代までにはまったく報告がない状態でありました。これは日本だけの病気ではないかとも考えられるようになりました。そこで、日本での研究が重要との認識が拡がり、1975年には厚生省特定疾患研究事業による調査研究班が設

けられました。その後、この班研究体制が調査や研究の場となり、整形外科医を中心に、いくつかの領域の研究者を集めたオールジャパンの研究体制が敷かれ、原因の解明、診断法や治療法の開発が進められてきました。現在は厚生労働省特定疾患対策事業「脊髄靱帯骨化症に関する調査研究班」(班長中村耕三東京大学教授)として引き継がれ、研究が続けられています。

この病気の原因は未だ不明ですが、30年に及ぶ研究の結果、いろいろなことが判ってきました。たとえば、頌椎後縦靱帯骨化症は首(頌椎)の後縦靱帯が厚くなり骨に変わる病気です(これは英語ではOssification of the Posterior Longitudinal Ligamentと云うので、頭文字をとってOPLL(オーピーエルエル)と呼びます)。加えて、背中(胸椎)や腰(腰椎)にも後縦靱帯骨化が生じることも判りました。また、黄色靱帯と呼ばれる脊椎の靱帯も骨化することが判り、胸椎黄色靱帯骨化症(OLF)と呼ばれます。そのほか、遺伝的背景がこの病気の後ろにあること、

OPLLの方には糖尿病を併発している方の頻度が高いことなどが判りました。

また、診断については、レントゲンコンピュータ断層検査(CT/シーティ)や磁気共鳴撮像検査(MRI/エムアールアイ)など画像診断機器の発達もあり、随分と進歩してきました。その結果、OPLLやOLFが見つかっていても神経の圧迫症状のない方も見つかるようになってきました。つまり、レントゲン検査でOPLLやOLFがみつかったても、手足のしびれや動きにくさがなく、手術の必要性がない方もいます。

治療についても、手術治療を中心に急速に進歩してきました。首の前から骨化した靱帯を取り除く方法(前方手術)や首の後ろから神経の圧迫を除く方法(後方手術)、それぞれについて様々な工夫が加えられ、安全性が高められると同時に治療期間の短縮なども得られるようになってきました。このような経験を通じて、日本の頌椎手術の水準は世界でもっとも高いものとなっています。

このような研究の成果を

まとめ、今後の研究の方向性を探る意味を含めて、診療ガイドラインを策定しました。また、診療ガイドラインに基づいて、この病気に悩む患者さんにも正確な情報を知って戴くことが、正しい療養姿勢を保つために必要との考えから、ガイドブックも作成しました。



これを読んでいただき、ご自分の病気を正しく理解して戴きたいと願っています。

しかし、未だ残された問題はたくさんあります。まず、原因です。兄弟や親子でこの病気になる方がおられることから、遺伝がこの病気の発生に関係しているだろうとの疑いを抱いています。これを明らかにするためには兄弟あるいは親子でこの病気を持つ方の遺伝子を調べることが重要とされています。しかし、未だ十分な数が集まっておらず、解析に至っていないのが現状で、兄弟や親子で同じ病気を持つ方の協力

を求めています。

治療も進んできました。しかし、当初は治療の目的が「歩けるだけでもいい」、「手が使えるだけでもいい」といった水準であったために、治療の成績が随分よくなったと考えていました。しかし、患者さんの視点からは、「痛みが辛い」、「体が硬い」などまだまだ満足できない点があります。そこで、初期のころに使われていた治療結果を評価するシステムを変えました。患者さんが結果を評価する、首の動き具合も評価する、患者さんの生活での満足度を評価する、これらを踏まえたシステムを5年あまりの年月を掛けて開発しました。これで従来、明確に把握することが難しかった点についても、評価できると考えています。

現在の治療は「傷んでいる神経(脊髄)」を直接治す方法ではありません。神経が自力で回復できる「よい環境」を作ることしか出来ないのが現状です。したがって、神経が回復する力を失った状態では、いかにうまく手術をしても、結果は得られません。そのために、回復が部分的となる方が少なくありません。今、新しい医学の技術で再生医療が唱えられています。OPLL の分野でも、傷ん

だ神経を再生させる試みが考えられています。実際に使えるのは、まだ先と考えられていますが、希望の種が出てきたとは言えます。もう一つは、「骨化」を治す薬です。ある薬での効果を試験しましたが、はっきりとした結果が出ませんでした。OPLL の骨は要らない骨ではありませんが、異常な骨ではありません。体の他の部分の骨と同じものです。ガン細胞のように正常の細胞と区別できるものは「抗ガン剤」という薬を作ることができますが、あつては都合の悪い場所にある骨だけを溶かすといった薬を作るのは簡単ではないようです。しかし、今後も研究を続けてゆきたいと考えています。

脊柱靭帯骨化症は難病です。しかし、いろいろなレベルで、つまり研究者は研究で、医師は診断や治療で、そして患者さんは考え方や気構えで、これに立ち向かうことで、この病気自体の解決とともに、われわれが難しい状態、苦しい状態に打ち勝つ知恵や技術が発見されることに繋がると思います。この病気に関わる人々が力をあわせて、難病を克服し、さらに高いレベルに歩を進めてゆくことができればと願っております。

日時： 1月17日(木) 13:30 から 16:00 講演会

演題： 難病・慢性疾患患者の医療と福祉

講師： 「今後の難病対策」勉強会実行委員長 水谷幸司さん

場所： アピオ大阪 207号室

問い合わせ・参加申し込み： 大阪難病連事務局(06-6463-2388)



私たちの病気に関する直接的な話ではありませんが、わが国の医療、福祉の現状と、どうなっていくのかについての講演会があります。

講演会・医療相談会などの予定

日時： 2月24日(日) 13:00 から 16:00 講演会

演題： 誰もが健やかな人生を歩めるために

講師： 国立病院機構宮城病院院長 全国難病センター研究会会長

木村 格先生

場所： アピオ大阪小ホール

問い合わせ・参加申し込み： 大阪難病連事務局(06-6463-2388)

誰でも、どんな状況になってもできないことはわずかであり、できることは山ほどあることに気づけば幸せです。できないことを悔やんだ毎日よりも、人に手助けをお願いしてもやりたいことをどんどん延ばしていければ幸せだと思います。木村先生のお話は、あなたの療養生活の糧となるでしょう。ぜひ、お友達とお誘い合わせてご参加ください。



日時： 3月23日(日) 13:00 から 15:30

演題： 後縦靭帯骨化症に関する講演ならびに医療相談会(詳細未定)

講師： 専門医師(依頼中)

場所： 寝屋川市立保健福祉センター(寝屋川市池田西町 28-22)

大阪難病連主催の医療相談会です。講演内容と先生はまだ決まっていますが、後縦靭帯骨化症に関する医療講演ならびに医療相談会です。会場はアピオ大阪ではなく、寝屋川です。内容や先生が決まり次第ご案内します。予定に入れておいていただきたくお願いします



上記のご案内は当会のブログ(日記風 パソコン書き込みページ：<http://blog.canpan.info/osakaopl/>)にも記載しています。インターネットのできる方は是非ブログを参照して下さるようお願いいたします。



これからの10年に向けて思いを新たに

全国脊柱靭帯骨化症患者家族連絡協議会 会長 杉山 清美

全脊柱連結成10周年を迎えた今年を、これからの10年に向けた第一歩と位置づけて活動をしてきましたが、その2007年も早いものでやがて終わりを告げようとしています。振り返ってみますと今年もいろいろなことがありました。

中略

さて、翻って私どもの組織実態を考えてみたいと思います。全脊柱連が結成された平成9年の時点で既に組織されていた患者会は、北海道、長野県、大阪府、岡山県、尾道市の5団体ですが、このうち岡山県OPLL友の会並びに尾道市脊柱靭帯骨化症友の会は本年7月以降相次いで休会のやむなきに至りました。何れも代表の方の病状悪化により活動不能に陥ったことや後継者不在が直接の要因です。

夫々の代表の方は、患者会結成の中心的役割を果たし、更には結成後もご自身の病状を克服されながら会報の発行或いは会員さんや患者さんからの相談や問い合わせに親身になって対応し、患者会本来の活動を精力的にしかも誠意をもって実践されてこられただけに、活動の休止をまさに断腸の思いで決断されたものと推察しています。本当にお疲れ様でした、と心より敬意を表し感謝申し上げますと存じます。これからは療養に専念され一日も早く回復されるよう心から祈念いた

します。

さて、この患者会活動休止の事例から私どもは何を学び取り、何をしなければならぬのでしょうか。

脊柱靭帯骨化症の根絶は、諸先生方の懸命な研究にも関わらずまだ先が見えていませんし予防法もありません。統計的に見ても患者数は毎年増え続けていますし、残念ながらこの傾向は今後も続くでしょう。私どもが味わってきたこの痛み、瘦れ、苦しみ、悩みは後世に残したくはありませんが願望と現実の乖離は如何ともし難いものがあります。皆さんの積極的な患者会活動によって多くの方に生きる希望と勇気を、そして病気についての正しい知識を与えてきました。更には研究班が取り組んでいる研究の進展状況に強い関心を寄せ、患者としての強いメッセージを常に発信することは、それだけ諸先生方の研究に対する意欲を高めることにつながっているのではないのでしょうか。

又行政に対し患者側の要望を求め続けることは、例えそれが実現されることが少ないにしても、難病や福祉制度の後退に歯止めをかける効果があることを否定することはできません。昨年からのパーキンソン病や潰瘍性大腸炎の特定疾患外しに対する反対運動がそ

のことで実証しています。

このように患者会の役割は増すことさえあれ決して減退することはありません。しかし、患者会活動は特定の方に頼っていたのでは持続は困難です。高齢化は必然であり又病状悪化の危険性を常に抱えながらの活動ですから、そのときに備えての運営体制を考えておかねばなりません。会員さんも患者会から得ることのみを考えての参加ではなく、得たものを更に進化して後に引き継ぐ役割と責任があるのではないのでしょうか。

全脊柱連結成以来初めて活動休止の患者会が発生したことについて、全脊柱連としての対応にご批判もいただきましたが、これを謙虚に受け止めどの

ような対応策があるのか真剣に考えなければならない時期に来ていると自戒をしているところでございます。

全ての患者会が岡山県並びに尾道市の活動休止を我がこととして考え、より活動の活性化を図ることが、無念な思いをかみ締めているご両人を少しでもお慰めすることになるのではないのでしょうか。

波乱に満ちた 2007 年を送るに当たりこの 1 年を振り返ってみましたが、来年はこれからの 10 年に向けてスタートの年であります。

各位におかれましては来年は(も)希望に満ちた明るい年でありますよう心から祈念をいたします。

(平成 19 年 12 月 7 日記)



三重県二見が浦 夫婦岩の日の出

年賀状に思うこと 子

滝野 信隆

今年はエトのはじまり「ね(子)」の年です。

子という字は「了」…終わりと、「一」…始まりの意味を持っている。

古代中国の五行観では、子の方角は北で方位の中心であり、星は北極星である。時刻では一日の終わりの十一時から十二時と、始まりの零時から一時までを示す。そして動物では十二支の始めの「鼠=子」とされている。

宇宙の始まりは混沌で終わりは不明、混沌と不明を統括するのが「子」である。易はこの混沌を「太極」とし、子や太はこの全てをまとめつかさどることを意味している。

近世の女性の名に「子」の字をつけることが多いのも、家をつかさどるということの意味しているのであろう。増えるということは繁栄につながり、太極は大黒に通じる。そういえば、七福神の大黒様も鼠も俵にのっていますね。

でも、最近の女の子の名前から「子」が消えつつあるのが何か？を暗示しているような……

年賀状といえば、さいごに大抵「元旦」と書きますね？

「旦」の字は「一」即ち 水(地)平線の上に「日」即ち太陽が昇るサマからきています。だから「元日の朝」の意味です。

先日テレビで、大阪大学のある先生がこんなお話をしておられました。

みなさん「お日さま」を絵にかくとき何色で描きますか？

日本の子供さんは大方「赤色」で描くそうです。でも外国の子供の中には、「オレンジ」や「黄色」、中には「青色」で書く子もいるそうです。

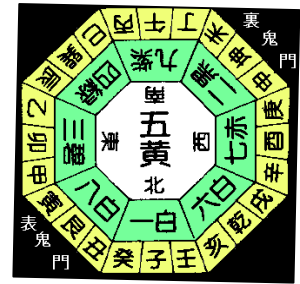
「アカい」という言葉と「あかるい(明るい)」という言葉は、昔は同じ意味を持った親戚のことばだそうです。

「あかちゃん」「赤子」還暦に着る「赤頭巾」「赤いチャンチャンコ」積極的に自己主張するのが好きな人は「赤」系統の服装がお好きとか……

スペインの闘牛では牛まで赤い布に興奮して闘牛士につかかかっていたり……

昔から「病(やまい)は、気から」とか申します。

気分を沈ませる暗い色はできるだけ身の回りから排除して「赤」主体の気分を高揚させる色を多く用いて、「病氣(やまいのき)」に打ち勝って「元氣(もとのき)」を取り戻しましょう。



パソコンのブログ (<http://blog.canpan.info/osakaopll/>) も見てください

インターネット上にブログと称する情報提供の場を設けています。インターネットに接続したパソコンをお持ちの方は、ぜひこのブログも参照して下さい。これからパソコンをやるという方、少しのことであればサポートできるかもしれませんので、問い合わせてください。

この会報誌やパソコンのブログへの投稿をお願いします

パソコンよりも、会報誌が重要だと考えています。パソコンを触りたくても触れない方もいらっしやると思っています。パソコンどころでは無い方がいらっしやると思っています。会合や講演会に参加したくても参加できない方がいらっしやると思っています。そんな方は、他の方の生活ぶりや、体験を参考にして工夫される方もいらっしやると思っています。会報誌は同じような病を抱えたか方同士の情報交換の手段になると考えています。どんなことでも結構です。会報誌への投稿をお願いします。体験談、どのようにして毎日を暮らしているか、どのようなことに気をつけているか、どのようにしてつらさを乗り越えているか、リハビリはどうしているか、日ごろの雑感、趣味関係、俳句、短歌、詩、さし絵、書、写真、簡単だがおいしいものの作り方、などなど お願いしたいです。

ワープロでも手書きでも結構です。事務局(住吉区荻田)のほうへ送っていただければありがたいです。お問い合わせは広報担当の池田(080-1443-5229)でも結構です。

会員番号をつけようとしています。ご了承をお願いします。

問い合わせ、連絡などしやすいように、会員の方に固有の会員番号をつけたほうが良いかと思っています。たとえば、大北 012 といえば 大阪北部にお住まいの 012 番の方という意味です。現在、新体制としての事務作業が滞りがちですので、今回の会報誌送付にはこの方式が間に合わないかと思いますが、順次整備していきたいと思っています。

編集後記

できるだけ事務作業に手がかからないようにパソコン化しようと思いつながら、仕事、家の雑用、自分の体調不良などのために、ほとんど実現できなかった。ブログへの書き込みも、材料が集まらず、なかなかできなかった。

この会報誌を低料金で送付する方法も分ならず、一から聞いて回る始末である。会を預かるということは大変であると思っていたが、事実大変であった。しかし、大阪難病連の会合に参加させていただいたり、堺難病連の方々にお会いしたり、全国の会報誌を見せていただいたりすると、ご自身も病気でありますが、本当に献身的に頑張ってください。とおられる方がいらっしやるとを知った。今まで、このような方々のご努力で、助けていただいていたことを知り、精一杯頑張っていたかねばと思う。次回の会報誌に会員の方からの投稿を載せたい。

M.
I.

年会費納入のお願い

平成19年度の会費が未納入の方がいらっしゃいます。平成20年度の会費と同時に良いですから、1月末までに必ず下記の振込先に振り込んでいただきますようお願い申し上げます。年会費は3600円です。期間は4月から翌年3月です。途中入会の方は月割です。

郵便振込み口座番号 00940-8-39457

国会請願署名と募金にご協力をお願い

私達 難病で苦しむ人に対する施策内容を改善させるための国会請願が行われます。是非とも同封の請願署名書にできるだけ多くの方の署名を集めていただきたく願います。署名に際しては、同じ住所でもそれぞれ書いてください。遅くとも2月上旬までに切手を貼って(各自ご負担願います)会の事務局の方へ返送していただきたく願います。また、関係官庁や議員の皆さんに私たちの状況を理解してもらうために、代表者が上京して、要求内容を勝ち取れるよう説明します。そういうことに費用が必要です。何かと物いりの時期で恐縮ですが、少しでも募金に協力していただきたく願います。上記の会費と同時に送っていただいてもかまいません。しかし通信欄にはその旨書いておいていただきますようお願い申し上げます。

郵便振込み口座番号 00940-8-39457

編集 大阪後縦靭帯骨化症友の会(略称 大阪 OPLL 友の会)
事務局 〒558-0011 大阪市住吉区苅田 6-17-8 中岡 甫
TEL/FAX 06-6697-6256
会長・事務局・会計 中岡 甫 TEL 06-6697-6256
副会長・広報担当 池田正孝 TEL 080-1443-5229
会のメールアドレス osakaopll@nifmail.jp

医療相談・資料請求等はできれば、FAX、郵便あるいはメールでお願いできればと思います。
無理な場合は上記の電話にお願いします。